

# 世界の人々を知るたびに出よう！

外川 博人

茅ヶ崎市立東海岸小学校

◆実践教科：社会科、総合的な学習の時間、道徳

◆時間数：15 時間

◆対象学年：小学校 6 年生

◆対象人数：31 人

## ◆実践の目的◆

子どもたちの知る“世界”へのイメージは、アメリカやヨーロッパなどスポーツ分野などを通じてよく取り上げられる国々に対するものがほとんどである。一方、募金活動などを通して、世界の実状に対する興味や関心はあるものの、なかなかそれを知る機会があまりないように思う。

その中では、その中で私は「見て・聞いて・感じてきたこと」をできるだけストレートな形で伝えられればと思い、写真や動画、現地で手に入れた実物を見せるようにした。また、現地や文化(衣・食・住を中心に)を「紹介するという面と、日本とのつながりを「考える」という 2 つの方向で考えた。日本とのつながりでは、日系社会と、青年海外協力隊などを通じての国際協力があるということに触れた。ただ単にパラグアイの生活や自然、JICA の活動を紹介するだけに終わらず、子どもたちに今現在も遠い国で活躍する日本とつながりのある人たちがいるということとその人たちの生の声を紹介したり、気持ちを考えさせたりすることによって、身近な存在として感じさせたいと思い、実践を進めている。また、そこから社会科の単元「世界の人々とのつながりを広げよう」へとつなげていきたい。

## ◆授業の構成◆

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1 限目</b> テーマ： 世界の様々な国を知ろう ～カンボジア～ ねらい： 発展途上国の実状を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人スクールエイドジャパンの住田代表のお話を聞く。</li> <li>・カンボジアの子どもたちがどのような生活環境の中で暮らしをしているか知る。</li> <li>・校内で取り組んでいく募金活動について考える。</li> </ul>	住田代表が用意されたスライド資料、現地の学校で使っている教科書・文房具等
<b>2 限目</b> テーマ： 世界の様々な国を知ろう ～地球の仲間たち～ ねらい： いろいろな国に住む人を、写真を通じて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開発教育セミナー初級編のワークショップより</li> <li>・「写真 DE フルーツバスケット」を通して、自分との違いや同じところを発見する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA「フォトランゲージキット」</li> <li>・パラグアイで収集した写真</li> </ul>
<b>3 限目～6 限目</b> テーマ： パラグアイってどんな国？ ねらい： これからの調べ学習の参考として、パラグアイを知り、世界の国について関心をも	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)「パラグアイに行ってきました」              収集してきた写真をもとに、パラグアイの地理や生活の一部を紹介する。</li> <li>(2)「パラグアイの生活や文化を知ろう」              衣・食・住などの文化面や子どもたちの学校での様子を紹介する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラグアイで収集してきた写真や動画</li> <li>・テレセット、通貨等の収集物</li> </ul>

<p>たせる。また、他の国を見る視点を広げさせる。</p>	<p>(3)「パラグアイと日本のつながりを知ろう」 世界で活躍する日本人を知る。青年海外協力隊員の活躍、日系社会の存在を知る。 (4)「もしもパラグアイが100人の村だったら」 パラグアイの生活の実状を予想しながら考える。</p>	<p>(参考文献) 『もしもパラグアイが100人の村だったら』</p>
<p><b>7 限目～15 限目</b> テーマ： 世界の人々を知る旅に出よう ねらい： 自分の興味をもった地域・国についてそれぞれが調べ、紹介する。</p>	<p>(1)ワークショップ 「もしも世界が100人の村だったら」 (2)これまでのパラグアイでの話などを聞いて、考えたことを踏まえて、世界の国々のことで興味をもったことを調べる。「衣・食・住・日本とのつながり」など、テーマをしばって考える、まとめる。 (3)調べたことを新聞にまとめ、ポスターセッションを行う。</p>	<p>(参考文献) 『ワークショップ版 もしも世界が100人の村だったら』</p>

## ◆授業の詳細◆

### 【2時限目】

JICA のキットを用いて、フォトランゲージを行った。その際、資料にパラグアイで撮った町の様子の写真(ビルなどの建物・市場・視察先の学校など)を追加した。

内容としては、＜5～6人の小グループ＞で、「自分のお気に入りの1枚」を紹介→「自分(日本)とは違うところがある写真」の紹介を行った。

そのあと、クラス全体で“写真DEフルーツバスケット”を行った。それぞれの手元にある写真の特徴について考える活動である。鬼が、自分の手元の写真の中から“(日本での)自分と違って〇〇しているところがある”という内容を考え、鬼以外の人の写真の中に同じような場面や様子が入っていれば座席を移動する、とした。また、何度か取り組んだ後、鬼が考えるテーマを“(日本での)自分と同じで□□しているところがある”という内容で、同じくフルーツバスケットに取り組んだ。

この活動では、必ず一人一枚ずつ写真が手元にある状態にし、常に一人ひとりがその場で写真について深く考えられるようにした。また、この活動では、国の名前や人口などいった知識的なところに関係なく、地球上にはいろいろな生活をしている世界があるということを感じてほしいという思いからスタートさせた。普段の授業では、子どもたちの発言がどうしても偏りがちな傾向が見られる中、本時ではそれぞれが思い思いの意見を活発に言いあっていたのが印象的であった。また、この授業以降、子どもたちが“国際理解の授業”をやる、と伝えると「今度は何をやるの?」ととても興味をもつことが続いた。また、子どもたちは、この活動を通して写真の実に細かい点まで観察していることに気づかされた。

いきなり、パラグアイについての内容に入っていくのではなく、世界には様々な国々があるという視点で単元をスタートしていったのは、よかったと思う。

### ☆本時での子どもたちの感想・意見(抜粋)

- ・自分との共通点を探したのだけど、他の人が言ったのとは違ってなかなか(フルーツバスケットで)動くことがなかった。同じ地球なのに、こんなに違うんだということがわかった。
- ・くつをはいていなかったり、ごみの山の中で働いていたり、すごくビックリしました。でも、空や山がすごくきれいで、一度でいいから行ってみたいと思いました。
- ・私がたまたま手に取った写真は、車がたくさんある国の写真でした。でも、信号がないのに、とても混んでいて不思議な気持ちになりました。
- ・貧しそうに見えるような写真でも、友情がめばえている人たちや子どもを産んでいる人とかがいて、すごくうれしそうにやっていました。そして、そこにうつっている景色や風景はすごくいきいきとしていて、いいと思いました。
- ・日本と同じようなサンダルを履いているけれど、上半身は寒そうにしている写真があった。その

人たちにとって普通なもの、私たちにとっておかしいということは、価値観の違いがあると思った。私たちにとっての「普通」とそのほかの国の人たちの「普通」をもっといっぱい知りたいと思った。

### 【3・4時限目】 「パラグアイに行ってきました」

ここでは、プレゼンテーション用ソフトを用いて、国や生活の様子の中から、クイズ形式などを用いて、トピック的に紹介したり(資料参照)、現地で手に入れたものを考えて予想してみたり、実際に見たり触ったりなどの方法で紹介した。

具体的なトピックとしては、①国旗の特徴(世界で唯一表裏ある国) ②街の中に見つけたゴミ箱の形 ③電力供給の秘密(イタイプダムの紹介) ④農家で飼われる家畜(ウサギなど) ⑤パラグアイと日本のつながり(イグアスの紹介) ⑥ホームステイ先にて(日本の教科書と銃) を紹介した。この他、首都アスンシオンで撮った20枚ちょっとの写真を簡単にスライドショーで流した。子どもたちは、スライドを進めるたびに驚きの声をあげたり、納得したり・・・と実に多様な反応をどんどん返してくれたのが印象的であった。

ただ、このときの感想の中に、「パラグアイは、自然がいっぱいだと思っていたけれど、高層ビルが多くあって、ちょっと意外でした。」というものがあつた。私としては、貧しいイメージがあるパラグアイという南米の国のなかでも、ビルなどの建物があるということを紹介できれば、という軽い気持ちで写真を選んだのだが、子どもたちの中には先述のようにとつたものもいた。研修のときから、子どもに伝えるときに「紹介しているのは、そのほんの(生活などの)一部に過ぎないということ意識して教えなければいけない」という旨の話を聞いていた。そのため、自分では十分配慮しているつもりだったが、子どもたちがあまりに素直にリアクションを返してくれたことに驚きつつ、実践の重みについて考えるきっかけにもなつた。

#### ☆本時での子どもたちの感想・意見(抜粋)

- ・地球の反対側で日本のものが売られているのに、おどろいた。なんで日本語で(お店の中の表示が)書いてあるのかも不思議だった。でも、それは日本での値段で考えても、かなり高額だったのに、ビックリした。輸入品だから？
- ・うさぎが食べられていると聞いて、ちょっと複雑な気持ちがあつたけど、(生きていくためには)仕方ないことなんだろうなと思った。
- ・日本とパラグアイは、国同士は離れているけど、日本の教科書や神社があつたりしてつながりが深いことに驚きました。でも、気になつたのは、どうして日本に関係のあるものがパラグアイに広がっているのかということです。パラグアイの人との信頼関係が築けている証拠なのかなと思いました。
- ・裕福な家があることは分かつたけど、貧しい人たちの話も聞きたかつたです。お金のな(物価?)も、もっと知りたかつたです。
- ・カラスよりも犬などの他の動物を警戒してゴミ置き場を高くするのはおもしろいな、日本とまったく違うなと思いました。
- ・パラグアイで、どんな遊びや運動をしているのか知りたくなつた。また、どうして銃を普通の家に置かなければいけないのかも知りたい。
- ・パラグアイの人が日本と同じ教科書をもつていて、ビックリしました。
- ・青年海外協力隊のことをもう少し詳しく知りたい。
- ・どうして国旗が裏表2種類あるのか。2種類あつて便利だつたことはあつたのかなと思った。

### 【5時限目】 「パラグアイと日本のつながりを知ろう」

4時限目のリアクションカードの中に、青年海外協力隊についてももう少し詳しく知りたい・・・というものがかあつたので、単元計画を変更して、研修中に会つた協力隊員の仕事を写真とともに紹介し、どんな活動協力をしているか予想をたてながら、話をした(ワークシート、資料参照)。

#### ☆本時での子どもたちの感想・意見(抜粋)

- ・日本人がパラグアイの発展のためにつとめていることを初めて知りました。

- ・日本から外国へ行って、いろいろなことを教えてあげる仕事をしている人がいることを初めて知りました。
- ・青年海外協力隊の人たちは、それぞれ違うことを教えていて、また意外はことを教えていたのでおもしろかったです。
- ・パラグアイの人たちが少しでの幸せになってほしい、と思って活躍している人たちの気持ちが伝わりました。日本って頑張っているなあと思いました！
- ・野菜を食べる習慣がないということに驚きました。

### 【6時限目】 「もしもパラグアイが100人の村だったら」

以前協力隊員としてパラグアイに派遣されていた方が、現地調査したのをまとめた冊子「もしもパラグアイが100人の村だったら」を、研修中現地JICA事務所でもらった。それをもとに、ワークシートを作成、現地の実情を理解するきっかけとした。

私が選んだテーマは、①識字率、②小学校の卒業、③病気になったとき医療機関に行くかなど、小学生にとっても身近なものを選んだ。それぞれのテーマで、「もっとも豊かな20人」「最も貧しい20人」のうちの人数やその内容を予想する活動とした(詳細は、ワークシート：資料参照)。

子どもたちの中には、どうしても、“開発途上国＝みんな貧しい→みんな餓死してしまいそう”という思いに近いものがあったようだが、貧しい人たちの中でもある程度の生活が保たれている人もいるという認識が少しずつ生まれてきた。子どもの言葉を借りて言えば「パラグアイも日本と同じで、“格差社会”なんだね」ということであった。

### ☆本時での子どもたちの感想・意見(抜粋)

- ・豊かな人たちの中にも、子どもが働いていると知って、驚きました。また、トイレも全員にあるわけではないので、どうしてトイレをもたないのか気になりました。
- ・豊かな人の中でも、小学校を卒業していない人が少なかったり、水道が通っていない人がいたり意外なことが多かったです。
- ・テレビで見た光景と同じだなあと思いました。パラグアイは、日本よりも格差が大きいんじゃないかなあ。反乱は起きないのだろうか。
- ・貧しい人もいたけれど、トイレをきちんともっていたりして、思っているよりひどくないんじゃないかと思いました。
- ・貧しい人たちも、文字を意外と多くの人が読めていて、意外でした。
- ・思っていたよりも食べ物に困っていないんじゃないかなと思った。

### ◆全体を通して◆

子どもたちは、実に素直に受け取ってくれたというのが、率直な感想である。それぞれが目にする場所が違ってとても興味深かった。青年海外協力隊に興味を示した子・パラグアイに「日本人」が住んでいたことに興味を示した子、犬が多くいたことに興味を示した子など、さまざまであった。子どもたちへの好奇心の強さに改めて驚かされた。

その裏返しで、伝え方には十分に気をつけなければいけないと思った。3時限目の実践で概略だけを伝えたら、「パラグアイにも高い建物がたくさんあることに驚いた」「平和な国だと思った」などという反応も返ってきた。その後「もしもパラグアイが100人の村だったら」を紹介すると、考え方にも変化が見られてきた。

今回は、学年で総合の単元を組んでいることもあり、パラグアイの内容は社会科の調べ学習の事前学習という扱いになった。その社会科の調べ学習と関連させて“世界の貧困”について調べを進めている子どもたちも数人いた。また、私の紹介の仕方を参考にして、クイズ形式を取り入れたり、その国のNO.1を探す子どもがいたり、と調べ学習にもある程度の幅をもたせることができた。その一方で、パラグアイの授業をしている最中に子どもたちから出た疑問・気づきに寄り添えなかったこと、課題意識をそのまま学習にもっていけなかったことが、とても心残りである。

ただ、今年度実践したことを柱に来年度以降も、児童の実態に合わせて続けていきたいと考えている。滞在2週間の中で、多くの体験を得ることができたのだが、どうしても「あれもこれも」伝えたい…と

いふようになってしまい、今年度はしぼりきれなかったところが反省として残った。今年度実践した資料は残して使えるとは思ふが、また別の観点で実践ができないか今一度資料を整理し直したいと考えている。

◆参考資料◆

<3・4時限目 スライドショーの一部>

いきなりですが・・・

**パラグアイ クイズ！！**

Q1. 世界でパラグアイにしかないものがあります。それを下から予想して選ぼう。

- ①お昼休みが、2時間以上ある。
- ②国旗に、表と裏がある。
- ③国会が、3種類もある。

⇒

答えは・・・

②国旗に、表と裏がある。

表は、「5月の星」(独立記念)  
「ヤシとオリーブの葉」  
「国の名前」が描かれています



裏には、「自由の帽子」  
「ライオン」  
「平和と正義」と描かれています。



○ これはなんだろう？その1



まちのあちこちに、  
こんなカゴがいっぱい・・・

⇒

○ これはなんだろう？その1



ヒント1: 中には、「アタつき」のものもありました。

ヒント2: まちのあちこちで見かけるけど、特にあちこちのまわりに多くあったような気がします。

ヒント3: まちをキレイに保つために役立ちます。



答えは・・・!?  
**ゴミ箱でした！！**

○ これはなんだろう？その2

農場を見学していたら、こんなものを発見・・・!?



ヒント1: どうやら農業とは関係ないみたい、でも、生計をたてるには、必要らしい。

ヒント2: 聞いてみると、「これは、鷹よけのお守りとしてとってあるんです」

ヒント3: ん？？吊り下げられた下の地面を見ると・・・

⇒

○ これはなんだろう？その2

答えは・・・



この他にも・・・



お宅訪問！～ホームステイ体験～



あれっ!?

あれっ!?!? ここはどこ??  
なぜでしょう??



<5時限目 ワークシート>

### バラケアイで活躍する日本人

名前: \_\_\_\_\_

#### ★水野祥昌

大学で農業を学び、協力隊に応募。  
水野さんが困っていることはどんなことだろう?  
予想: 動物が 餌を食べない。

今日の学習を終えて(楽しかったこと・重かったこと・もっと知りたかったこと etc.)  
みんな 自分の得意をいかして、いるんだことを教えて、まがり、1つと見せし、心をもたせよう。  
おなじくも集めて、暮らして、一石二鳥、2つは、おなじ。

これから調べてほしいこと  
① どの国や地域を調べますか?  
② どんなことを調べていきますか?  
(食・食・住? 風俗? 民俗のこと? 日本とのつながり?)  
みんなが 暮らしたとして、のりか。(お井)など、その人たちのために、協力隊は何をしているのか!  
③ どうやって調べていきますか?  
インターネット

#### ★山崎祥昌

大学の授業を受けて、協力を生かしたいという思いで、協力隊に。  
さて、今村さんは、何を探しているのでしょうか?  
予想: ネット、本、雑誌、新聞、テレビ、ラジオ、インターネット。  
そして、現地の人がなぜ、言っているのでしょうか?  
予想: 手紙やメールに、お礼を言っているから。  
お礼を言っているから。

どんなことを教えているのでしょうか?  
予想: 園の整理や、お礼を言っていること。  
お礼を言っていること。

<6時限目 ワークシート>

### もしもバラケアイが100人の村だったら

名前: \_\_\_\_\_

もしも、バラケアイは100人の村だったら どうなるでしょう?  
ちなみに、日本が100人の村だったら、男の人は 40人、女の人は 60人です。  
ちなみに、世界が100人の村だったら  
61 40人がアジア人、13人がアフリカ人、13人が南北アメリカ人、12人がヨーロッパ人、あとは、南太平洋地域の人です。

バラケアイ村で・・・

① 最も豊かな20人のうちの 19人が 手を動かすことができます。  
最も貧しい20人のうちの 7人が 手を動かすことができます。

② 最も豊かな10人のうちの 10人が 小学校を卒業していますが、最も貧しい10人のうちの 1人が 小学校を卒業しています。

③ 病気やけがで痛みがひかないとき  
最も豊かな20人のうちの 20人が 医療機関に行きますが、最も貧しい20人のうちの 0人が 医療機関に行きます。  
病院などに行かない理由は何なんだろう? 予想してみよう。

おまかせの病院に送られるお礼を言っている。

④ 病気やけがをしたとき  
最も豊かな20人のうちの 18人が 医者から治療を受けますが、最も貧しい20人のうちの 13人が 医者から治療を受けます。  
5人が 本人の治療を受けます。  
おまかせ

⑤ 5歳以下の子どもで最も豊かな20人のうちの 5人が 太りすぎて、最も貧しい20人のうちの 15人が 栄養失調(食料不足)の状態です。

⑥ 5歳から14歳の子どものうち、最も豊かな20人のうちの 3人が 働いていて、最も貧しい20人のうちの 7人が 働いています。

⑦ 最も豊かな20人のうちの 20人が トイレ を使っていますが、最も貧しい20人のうちの 10人が トイレ を使っていません。

⑧ 最も豊かな20人のうちの 12人が ごみの分別サービスがありますが、最も貧しい20人のうちの 15人は 分別ができません。  
おまかせ

⑨ 最も豊かな20人のうちの 17人が 車の中心に座席が設けられていますが、最も貧しい20人のうちの 18人は 車に座席が設けられていません。  
おまかせ

⑩ 最も豊かな20人のうちの 13人が 車を持っていませんが、最も貧しい20人のうちの 0人が 車を持っています。  
今日の学習を終えて(楽しかったこと・重かったこと・もっと知りたかったこと etc.)  
最も豊かな人でも 小学校を卒業していません人が、みんながたり、車の中に水道が通っていない人がいます。意外なことがあって、びっくりしました。